

## 令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1. 申請団体情報

##### 1-1. 申請団体

団体名	南国市			代表者名	平山 耕三
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画課企画調整係	連絡先電話番号	088-880-6553
担当者役職	係長	担当者氏名	小原 伯孔	連絡先E-mail	
住所	783-8501 高知県南国市大そね甲2301				

##### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

##### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名（予定）	DX推進事業（EBPMの推進）
概要	EBPMの必要性・手法などについて学ぶ職員向けの講義及びワークショップを実施する		
支援を求める分野	EBPM		

#### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	186	令和7年2月4日	フォローアップ	オンライン
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年8月22日	フォローアップ(オンライン)	10時00分	11時00分	
				活動時間（分）	60
2-2.	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
派遣場所	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

#### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村上 文洋
評価	大変よい
上記評価の理由 (どのようなところがよかったか等詳細に)	次年度以降の研修において、実践的な課題解決能力をもつ人材を育てるために、限られた時間の中で講師の知見をもとに複数のアドバイスをいただき、研修方針のベースが作成できた。
アドバイザーへの要望事項	3回目のフォローアップとして要望していたDX担当部署が抱えている課題、今後の進め方などにアドバイスをいただけたため、特に要望はありません。

#### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	5人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	5				

##### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	政策立案が主観や経験によって行われており、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施することの意義を理解しデータを活用し業務につなげる習慣がこれまでなかった。管理職も含めてデータにより政策の意義や効果を説明することができていない。職員はEBPMの推進と言われても、どのような取り組みなのか、何から始めればいいのかわからないなど感じている職員も多い。また、それぞれの部署で業務の結果データは蓄積されているが、サイロ化しており、他部署のデータと組み合わせる新たな視点で政策を展開することはできていない。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	1・2回目のEBPM研修で得られた受講者の意見をもとに、本市の課題を洗い出すとともに、これから進めるべき全市でのEBPM・DXの研修方針やそのきっかけづくりについて助言をいただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	DXにおける業務の見える化や業務改善については、これまでも研修を行い、一定程度の知識としては身につけているが、データの利活用(EBPM)の習慣化については、今後のDXを進めるうえでの取組みの一つであった。データの利活用については、データを基に課題を見つけるのではなく、課題解決のためにデータを利用するとの本質があるが、職域ごとに職員が日々の業務の課題を見つけ、改善する組織となるために必要なことを助言いただき、本市で検討していた研修方針がブラッシュアップされた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	④人材育成のカリキュラムやツールを策定できた EBPM・DXの本質を理解する研修とするために、研修目的・対象・受講前アンケートなど、次年度を受講方針が策定できた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	研修の真の目的であるDXの実践について、研修を受講して終わりということは避けたいため、今後どのように働きかければ各所属で実践されるようになるか、3回目でフォローアップを受けた。しかしながら、結果が出るには複数年かかるため、結果という部分は持ち越しになった。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 内容が次年度以降の研修方針策定支援であり、また、参加者がDXをマネジメントする部会員であることから、アンケートではなくフォローアップをもとにした次年度事業の検討会を行う予定である。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある DX・EBPMについてはツールの導入ありきのものではないと考えているため、スモールスタートで継続していく。また、研修については、実践につながるものとするため、研修の内容・アンケート結果を踏まえながら計画的に実施する。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	主観や経験に頼るのではなく、科学的なデータや調査結果を重視して政策を立案、実施し、効果検証を行うことが地域課題の解決につながることを職員が意識し、実践できる組織となり、そして地域課題に対して根拠となるデータを用いながら住民と共同で課題に取り組むことで、より地域に即した課題解決が行えることを目標としている。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可  掲載可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

**なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください**

## 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

